

令和 6 年度
第 2 回滝川市地域包括支援センター運営協議会
(書面会議)

次 第

1. 議 事

- (1) 令和 6 年度第 2 回滝川市地域包括支援センター運営協議会
報告内容要旨 (P 1)
- (2) 令和 6 年 4 月～9 月滝川市地域包括支援センター
活動報告について (P 2～P 8)
- (3) 令和 5 年度高齢者実態調査結果報告について (P 9～P 10)
- (4) 令和 6 年 4 月～9 月認知症初期集中支援チーム
活動報告について (P 11～P 12)

令和6年度 第2回 滝川市地域包括支援センター運営協議会 報告内容要旨

令和6年4月～9月 滝川市地域包括支援センター活動報告について

- 新型コロナウイルス感染者は利用者でも職員でも時折発生するが、感染拡大しないよう対策を講じており、通常通り業務を継続して実施している。また、市民が参加する事業については、近年酷暑であることから開催時期に配慮して開催している。
- 認知症関連事業では、認知症の理解・普及啓発、多世代の交流を目的に、誰でも参加できるお出かけの場として、街のおしゃべりサロン「elua（エルア）」を三世代交流センターにおいて月1回でスタートした。誰でも気軽に参加していただけるよう認知症や保健師の相談は前面に出さず、また、目的を持って参加したい人には、認知症普及啓発イベント「おれんじフェスタ」で配付することを目指した積み木づくりもできるようにしている。定例で開催を続け、定着を図っていきたい。
- 生活支援体制整備事業では、生活支援コーディネーターを1名増員し2名体制とした。現在、新任の生活支援コーディネーターは、地域の老人クラブやいきいき百歳体操など地域の活動場面に参加しての情報収集、研修参加、地域の通いの場に関する情報を集約した冊子の校正作業等を行っている。今後、役割分担しながら地域活動に参画する予定。
- 高齢者権利擁護研修会について、令和元年度開催以降は新型コロナの関係で開催を控えていたが、今年度集合研修の形で開催した。

令和5年度 高齢者実態調査結果報告について

- 別紙資料 ○まとめ 参照

令和6年4月～9月 認知症初期集中支援チーム活動報告について

- 検討事例の無い月は会議を休止し、会議開催は計3回の会議、新規ケースの事例検討と支援計画作成、以前検討を行った事例の経過報告と対応の確認を行った。
- 今回は、3事例ともチーム員訪問は受け入れるが、サービス利用や専門医受診へ繋げることが難しく、家族が疲弊してきている状態だった。チーム員の訪問で本人との良好な関係を保ちつつ、畑作業が好きな本人には「コミュニティ農園 畑楽」への参加を勧めたり、家族に対しては負担感の軽減や気分転換を図れるような声かけや「介護者サロン」への参加を勧めたりした。いずれもチーム員会議に参加している認知症地域支援推進員の保健師が主担の事業であるため、スムーズに繋がった。
- サービス利用につながった場合、継続支援終了としているが、随時担当ケアマネージャーと情報共有しながら後方支援を行っている。介護支援専門員と関係性が悪くなってしまいサービス中止になった事例については、一度こちらで引き受け、生活状況を確認しながら、支援の必要と思われるタイミングでサービスに繋げる予定。

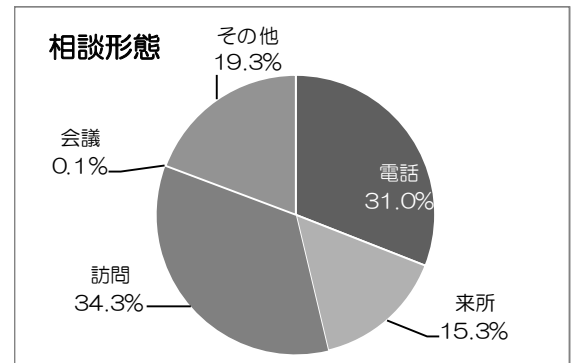
令和6年4月～9月滝川市地域包括支援センター活動報告

1. 総合相談支援

高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続できるよう介護サービスにとどまらない、保健医療福祉の機関又は制度の利用につなげる等の総合的な支援を行った。

(1) 相談件数（単位：件）

6年度 前期	1,105
5年度 前期	1,005



(2) 相談形態（単位：件）

	電話	来所	訪問	会議	その他	合計
6年度 前期	321	159	356	1	268	1,105
5年度 前期	298	159	344	3	201	1,005

(3) 相談者区分（単位：件）

	本人	家族	民生 委員等	地域 団体	医療 機関	警察	実態 把握	その他	合計
6年度 前期	211	177	31	99	80	21	472	14	1,105
5年度 前期	120	189	28	101	75	15	455	22	1,005

(4) 相談内容区分（重複あり）（単位：件）

	介護日常 生活相談	医療に関 する相談	権利擁護 相談	実態把握	苦情相談	SOS 関連	その他	合計
6年度 前期	480	83	12	473	1	2	92	1,143
5年度 前期	532	67	21	453	1	0	76	1,150

(5) 対応内容区分（重複あり）（単位：件）

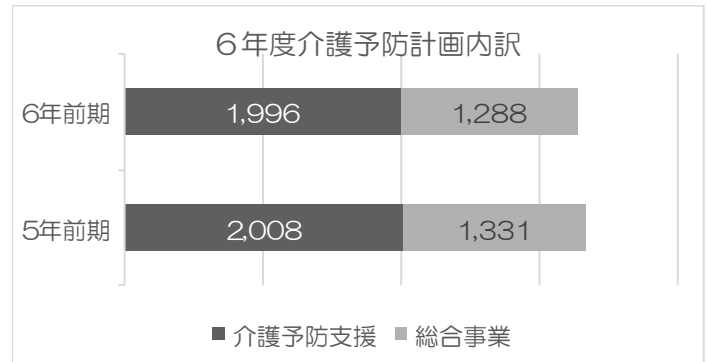
	相談・ 情報提 供	ケース 会議	連絡調 整	家庭訪 問	申請代 行	SOS 関連	調査訪 問	その他	合計
6年度 前期	785	14	616	322	29	0	465	68	2,299
5年度 前期	811	4	562	293	48	1	413	94	2,226

2. 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2の認定者、総合事業対象者がより自立した生活を送れるために、適切な介護予防サービス等が提供されるよう、予防サービス計画を作成した。

(1) 担当総件数（単位：件）

	包括	委託	合計
6年度前期	3,233	216	3,449
5年度前期	3,310	253	3,563



(2) 予防計画作成実績（単位：件）

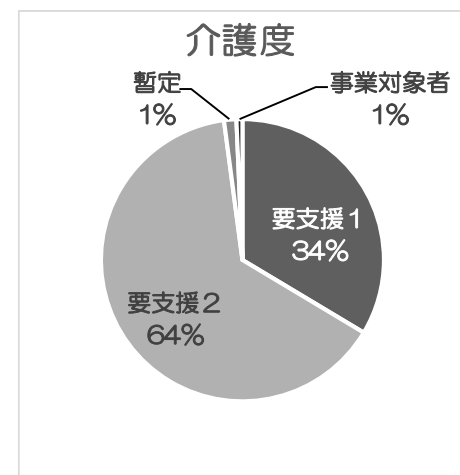
	介護予防支援			総合事業			合計
	包括	委託	計	包括	委託	計	
6年前期	1,840	126	1,966	1,210	78	1,288	3,254
5年前期	1,877	131	2,008	1,236	95	1,331	3,339

令和6年度指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに係るケアプラン作成委託業務事業所（令和6年9月末現在）

- ・有限会社 ケア・コラボレートK・H
- ・医療法人社団 新緑会 文屋内科消化器科医院
- ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
- ・医療法人 シーザース・メディ・ケア
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会
- ・特定非営利法人 縁（釧路市）
- ・医療法人社団 曙（札幌市）

(3) 介護度（単位：人）

	要支援1	要支援2	暫定	事業対象者	合計
6年度前期	1,286	2,095	46	22	3,449
5年度前期	1,407	2,079	26	51	3,563



(4) 担当者会議開催数（単位：回）

6年度前期	365
5年度前期	381

3. 一般介護予防事業

ますますげんき教室

介護予防チェックリストにより、外出の機会が少なくなり、運動機能などが低下している虚弱高齢者を対象として週1回、血圧測定・健康チェック・百歳体操・ミニ講座（栄養・歯科・転倒防止など）を実施した。感染予防のため短縮していた実施時間を通常に戻して実施している。

ますますげんき教室参加者数(単位：回・人・人)

	開催回数	実人数	延人数
6年度前期	40	27	403
5年度前期	42	28	420

4. 包括的・継続的マネジメント事業

地域の介護支援専門員の指導や支援のほか、高齢者が住みやすい地域にするため、関係機関とのネットワークづくりを行った。

(1) ケアマネジャーの相談窓口

相談件数（単位：件）

6年度前期	3
5年度前期	3

困難事例の相談を受け、対応を検討した。

(2) 関係機関ネットワーク会議

在宅・施設・医療等の関係機関に呼びかけ、相談員・介護支援専門員が参加。

偶数月の水曜日に定例で情報交換・事例検討を行う他、関係者向け情報提供、事業所間の情報交換をオンライン会議で開催した。

(3) 地域ケア会議

- ・自立支援型ケア会議（自立支援サポート会議）を開催し、地域の多様な専門職の助言により、幅広い視点から、その人らしい普通の生活を営めるような具体的な支援を検討した。（5回10事例）
- ・地域の個別事例を通じて、地域課題を見つけ解決につなげる、地域ケア個別会議を1回1事例実施。認知機能低下、被害妄想がある身寄りのない独居高齢者について、地域住民、関係者間で情報共有を行い、今後の関わり方について確認した。

(4) 在宅医療・介護連携推進事業

- ・在宅医療と介護の連携に関する地域の課題を抽出し、その対応策を検討することを目的に、市内の医療、介護に関する関係者が集まる推進会議を開催。事例検討を通じて、課題の共通認識を図り、課題解決へ向けての対策に取り組む。

会議は8月に開催し、医療との連携について小規模多機能型居宅介護の立場からの事例提供、令和5年度口腔・栄養アセスメントシート結果報告を行い、意見交換を行った。

(5) 生活支援体制整備事業

- ・高齢者が増加する中、多様な生活支援・介護予防サービスを利用できるような地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターが生活支援体制整備事業の基盤づくりとして、他地域のコーディネーターとの情報交換やオンライン研修会へ参加、認知症事業への協力・参加、地域の通いの場へ出向いての情報収集を行った。
- ・江部乙地区第2層協議体では、住み慣れた地域で安心して暮らすことを目的に介護予防を学ぶ「健康セミナー」を開催した。（健康セミナー68人）
- ・高齢者が通う通いの場や認知症事業と、ボランティア参加を希望する学生をつなぐ「学生ボランティア『チアフル』」を行った。

生活支援コーディネーター活動状況（単位：人）

	生活支援体制整備事業							認知症総合支援事業		合計
	① 1・2層 協議体	② 3層通 いの場 情報共 有ほか	③ 地域相 談・情報 共有	④ 他市町 村・庁舎 内など 情報共 有	⑤ 学生ボ ランテ ィア・高 齢連携 事業	⑥ 会議・研 修	⑦ 情報発 信	⑧ 事業・会 議・研修 ほか	⑨ 情報発 信	
6年度 前期	17	67	5	10	48	63	7	166	11	394
5年度 前期	15	30	7	4	32	41	17	98	22	266

※令和6年4月より生活支援コーディネーターを増員し2名体制で活動。

生活支援コーディネーターがチームオレンジコーディネーターを兼ねて活動している。

5. 認知症対策関連事業

（1）物忘れ相談プログラムによる認知症チェック

物忘れ相談プログラムを活用し、物忘れの自己チェックや認知症に関する知識の普及啓発を図る。
来所と訪問による個別対応で実施した。

物忘れ相談プログラム実施数

令和6年度前期 訪問相談 32人 来所相談 10人
令和5年度前期 訪問相談 17人 来所相談 14人

（2）認知症カフェの開催

認知症の人やその家族、地域住民、専門職が、気軽に集まり認知症や介護について意見交換できる
「認知症カフェ」を市内のグループホーム、ボランティア団体、家族会の協力で開設。

認知症カフェ参加数（単位：回・人）

	カフェ あけぼの		駅カフェ・陽 だまり		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
6年度 前期	12	194	12	258	24	452
5年度 前期	8	201	16	515	24	716

介護事業所主催のカフェは休止中。

（3）認知症啓発月間活動

- ・認知症普及啓発イベント「オレンジフェスタ」を実施した。

9月7日 三世代交流センター 参加人数 227人

- ①おれんじcafe（包括）78杯提供
- ②認知症事業パネル展（包括）
- ③認知症パンフ配付・認知症クイズ91名提出（包括）
- ④わんわんパトロール受付4名登録（包括）
- ⑤介護ロボット体験会（マルベリー）
- ⑥お菓子詰め合わせ販売50個提供（NPO法人風汐 トータルサポートリアル）
- ⑦スタンプラリー123枚提出（包括）
- ⑧ハンドマッサージ（タクティール紹介）（ハンドケアボランティア）18名
- ⑨キッズ休憩室
- ⑩脳に良い葉酸の入った豆乳の冷製スープ試食（健康づくり課 食生活改善推進員）100食試飲
- ⑪多世代が楽しめるイベント（認知症普及啓発イベントボランティアケアLabo 100名程度）
- ⑫モンゴルの文化に触れてみよう（企画課国際交流員）
- ⑬フルーツの鉛筆キャップ講座（ボランティアセンター）
- ⑭認知症ご本人の対談上映会（包括）43人

- ⑮PHOTO スポット（滝川西高校美術部）
- ⑯ロバ隊長に変身（学生ボランティアチアフル）

- ・認知症の見守り声かけ研修会を実施した。

見守り声かけ研修会（単位：人）

実施日	テーマ・講師	参加者
8月4日	わんわんパトロール&高齢者見守り声かけ研修会 講師 グループホームコスモス 主任 前川 幹治氏	12人

- ・看護学生と看護・介護に興味のある高校生を対象に認知症普及啓発イベントボランティア「ケアLabo」を募集し、多世代への認知症の理解と普及啓発活動を行った。
参加学生 18名（滝川高校 7名、滝川西高校 7名、滝川工業高校、滝川市立高等看護学院 4名）
実施回数 3回

（4）認知症サポーター養成講座

認知症について、研修を修了したキャラバン・メイトが、認知症についての理解と地域での見守り支援の普及啓発の為、認知症サポーター養成講座を実施。
各種団体の依頼に応じ実施した。
今年度前期で4回開催、計 101 人参加

（5）オレンジ倶楽部

認知症サポーター養成講座を受講した方の中で、継続して情報収集を希望される方を募り「おれんじ通信」を発行し、認知症の知識や認知症に関する活動を紹介した。
「おれんじ通信」の発行（7月）

（6）チームオレンジ

認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座を受講し、活動への参加を希望された方を対象に、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症ご本人やご家族と一緒に考え楽しむ活動（認知症本人の会「すまいる」、街のおしゃべりサロン「elua（エルア）」、コミュニティ農園畑楽など）に取り組んだ。活動には専門職（保健師・社会福祉士など）も参加。
「チームオレンジ便り」の発行（4～9月 月1回発行）

（7）認知症本人の会「すまいる」

若年認知症の方と高齢者の軽度認知症の方を対象とした、認知症本人の会を開催した。
物忘れが心配な方同士で自らの体験や希望などを話し合い、今後の生活に役立てていく場としている。
本人だからこそその気づきや意思を共有し本人のやりたいことの実現のため、チームオレンジがパートナーになる。
「すまいるゴー」を実施し、アウトドアレクリエーションを行った。
参加者 26名（本人 5名、ボランティア 9名、アドバイザー 1名、国際協力員 3名、職員 8名）

（8）街のおしゃべりサロン「elua（エルア）」

多世代の交流、認知症の理解、普及啓発を目的に誰もが参加でき、閉じこもらずに交流できる場所として、三世代交流センター1階にて、毎月第1木曜日に街のおしゃべりサロン「elua（エルア）」を開始した。

街のおしゃべりサロン「elua（エルア）」実施状況（単位：人）

実施日	チームオレンジ	一般	包括	他課	計
8月1日	9	15	5	4	33
9月5日	6	1	5	2	14

（9）コミュニティ農園畑^{はたらく}楽

介護サービスにつながっていない若年性認知症の方と高齢者の軽度認知症の方とご家族を対象とした、コミュニティ農園を実施した。学生や就労しているボランティアが参加しやすいよう、土曜日にも開催した。

コミュニティ農園畑楽 実施状況（単位：人）

	本人	家族	ボランティア	学生・教員	国際協力員	職員	計	内容
第1回	3	0	12	11	3	6	35	苗植え 畝づくり
第2回	4	0	14	-	2	7	27	野菜収穫 看板作成
第3回	3	0	10	-	2	6	21	調理試食・交流
第4回	4	0	13	7	2	6	32	野菜収穫
第5回	5	0	10	6	3	6	30	野菜収穫

（10）滝川市見守りキーホルダー

認知症によって行方不明となるおそれのある高齢者などの安全を確保し、ご家族や介護する方の負担を軽減することを目的に「見守りキーホルダー」の配布を行った。（令和6年度 配布数14個）

（11）滝川市わんわんパトロール

犬の散歩をしながら認知症高齢者を見守り、行方不明者の早期発見につなげる「わんわんパトロール事業」を開始した。登録者にはわんわんキーホルダーを渡し、散歩時持ち歩いてもらう。（登録者18人）

6. その他の事業

（1）家族介護者の支援

介護者サロン

家庭で認知症等の介護を行う介護者に対し、介護に関する知識の提供及び介護者同士の交流を通し、心身のリフレッシュ・介護者の疲れの軽減・介護者の悩みの軽減を図ることを目的に開催。介護者とは別室で被介護者を預かる託老も行い、介護者が参加しやすい体制づくりに努めている。

介護者サロン実績（単位：人）

	介護者	被介護者	オレンジ倶楽部	内容
第1回	21	3	13	介護技術について～事例から学ぶ
第2回	16	4	14	音楽療法 バンド演奏
第3回	19	4	10	椅子ヨガ
計	56	11	37	

（2）成年後見制度の申し立て支援

市長申し立てに関する相談は3件。1件は市長申し立てを行った。

（3）SOSネットワークシステム

徘徊による行方不明者をすみやかに搜索・発見するためのネットワークの構築。

現在の登録実人数は121人。うち、今年度前期新規登録者は16人 搜索依頼1件、無事発見。

（4）滝川市はいかい高齢者等位置探索システム助成事業

今年度前期における新規申請なし。

（5）高齢者虐待の相談支援 4件

警察、医療機関からの連絡、親族からの相談であり、現状を確認し関係者とで共有し対応している。

（6）高齢者権利擁護に関する研修会

高齢者虐待の概要や虐待の要因になりやすい認知症との関係を知り、地域での虐待の早期発見や防止を図る目的で、研修会を実施した。

高齢者権利擁護研修会（単位：人）

実施日	テーマ・講師	参加者
9月 18 日	地域で支える家族介護～認知症と虐待予防～ 講師 北海道医療大学 看護福祉学部福祉マネジメント学科 准教授 宮本 雅央 氏	48 人

（７）出前講座

市民や関係機関の依頼に応じて、高齢者福祉・介護予防等に関する講座を実施。

- ・9月 10 日 民生委員児童委員連合協議会研修会（心身障がい福祉部）11 人
- ・9月 22 日 北地区コミュニティセンター みんなの食卓 20 人

（８）地域リハビリテーション活動支援事業

上半期は実施なし。

令和5年度 高齢者実態調査 結果報告

令和5年4月現在での75歳以上総人数 7,505人

令和5年度調査実施地区の75歳以上総人数 1,079人

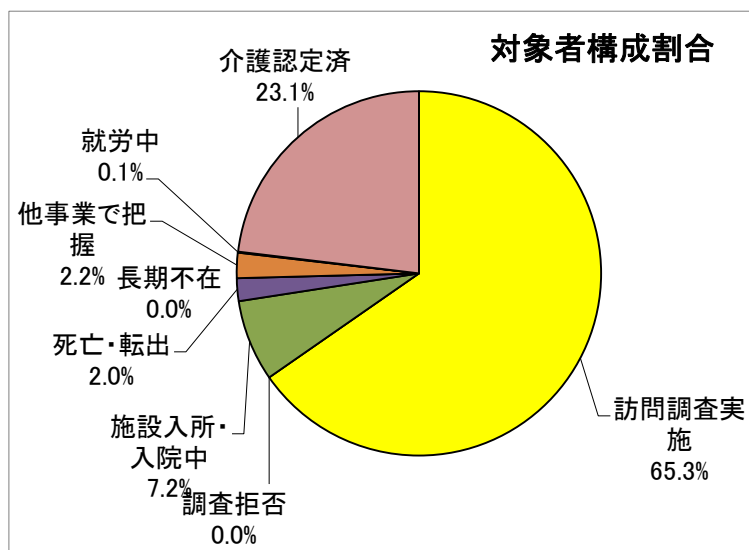
《調査実施地区》

一の坂町 東町 有明町 屯田町

・世帯構成に関係なく、令和5年4月1日現在満75歳以上の人を対象に訪問調査を実施。
介護サービス利用や入院・施設入所が明らかな場合は訪問せず。

	人数	世帯数	内訳		
			単身世帯	夫婦世帯	その他
総数	1,079	558	163	162	124
調査対象地区	一の坂町 東町 有明町 屯田町				

○対象者構成割合

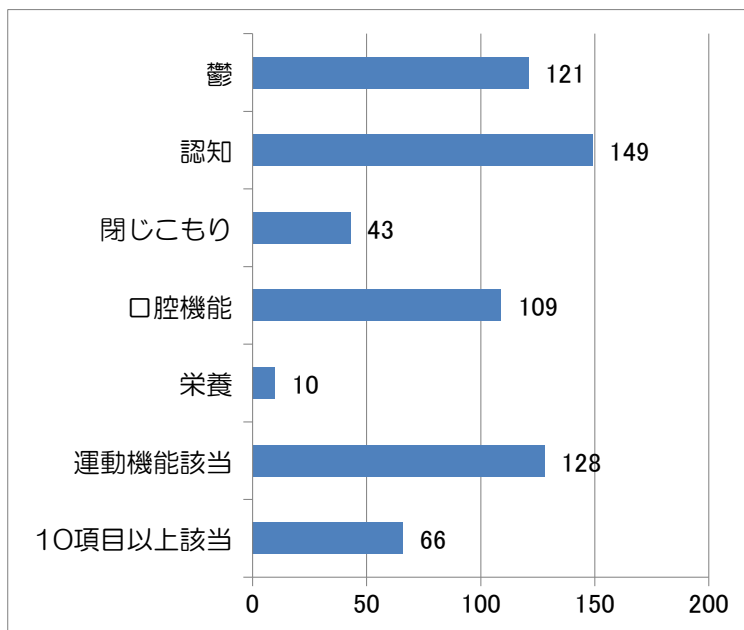


内訳	人数
訪問調査実施	705
調査拒否	0
施設入所・入院中	78
死亡・転出	22
長期不在	0
他事業で把握	24
就労中	1
介護認定済	249
総計	1,079

○二次予防事業対象者内訳

実数 309人

(調査実施者数の 43.8 %)



内訳(重複あり)	人数
10項目以上該当	66
運動機能該当	128
栄養	10
口腔機能	109
閉じこもり	43
認知	149
鬱	121

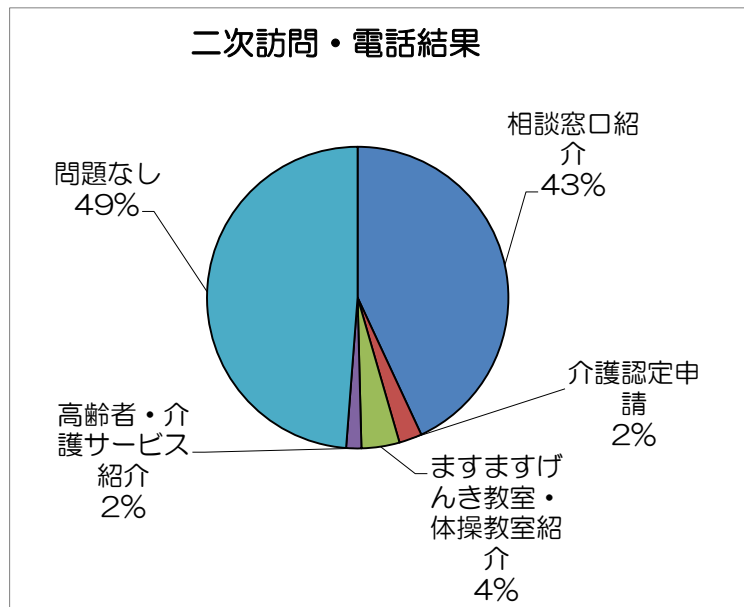
認知機能該当者が高い。

○二次予防事業対象者の発見率

	調査実施数(人)	二次予防事業対象者(人)	発見割合
実態調査	705	309	43.8%

○二次訪問・電話

二次予防事業対象者のうち、介護予防事業(ますますげんき教室・地域体操教室)通所の必要性がある人、介護・高齢者サービスの利用希望者、調査員が気になったケース123人に対し、地域包括支援センター看護師が訪問・電話かけを実施。



内訳	人数
訪問	38
電話	85
計	123

結果	人数
相談窓口紹介	53
介護認定申請	3
ますますげんき教室・体操教室紹介	5
高齢者・介護サービス紹介	2
問題なし	60
計	123

○まとめ

- ・事前に調査票を対象者宅に投函し、後日、回収する方法で調査。事前配布により、効率のよい調査につながっている。気になる対象者には訪問や電話確認により状況把握を行った。
- ・事前に把握した就労者は1名であるが、調査の聞き取りの中で就労がわかる人もおり、就労の全数は把握していないが増えている印象である。
- ・質問項目「自分で番号を調べて電話をする」の聞き取りでは、携帯電話の登録機能で通話するため調べていないと回答する人が見られている。
- ・調査訪問時に地域包括支援センターのパンフレットを配布し相談窓口の紹介をしており、パンフレットを通じて後日、家族から相談を受けることもあり、介護認定申請や体操教室、関係機関への相談につながっている。
- ・今後も、他部署との連携、見守り安心ネットワーク協力団体との協力による緩やかな見守り体制の充実を図りながら、より一層の早期発見・対応と相談窓口の周知を続けていく。

令和6年4月～令和6年9月 認知症初期集中支援チーム活動報告

1. チーム員会議の開催

会議実施数（単位：回・件）

	回数	検討事例数
令和5年度前期	5	7
令和6年度前期	3	3

事例の状況

	年齢	性別	世帯構成	相談者	支援経過
5月	80歳	男性	独居	姪	生活状況が把握出来ず心配はあるものの、家族関係で不和があり、これまでキーパーソンだった姪の支援が得られなくなった。社会資源には繋がっていないが、チーム介入により、他者の訪問を受け入れてくれるようになってきた。また、姪以外の親族との連絡体制が出来た。
7月	92歳	男性	同居(妻・長女)	民生委員 妻	易怒性があり、家族が対応に苦悩している。精神科受診やサービス介入は本人が拒否している。チーム員の訪問については拒否ないが、本人は問題意識がなく、社会資源や受診への繋ぎは難しい。家族支援を主に介入中。
9月	86歳	女性	同居(長女)	居宅ケアマネ	家族からの相談で居宅介入していたが、サービス利用に繋がらなかった。チーム員の受け入れは良いが、家族に対しては責めるような言動がある様子。 本人は畑仕事への関心が高く、認知症地域支援事業を計画。継続して参加出来ている。長女も介護者サロンに参加するようになった。

医療受診について(単位：件)

すでに受診済	0
認知症と診断	0
現在の受診科で経観	3

支援結果(単位：件)

支援終了	0
継続支援	3

継続支援状況

検討後の事例について、家族やケアマネージャー等と連絡調整しながら、訪問・受診同行等の支援を実施。

実件数 3 件、延件数 12 件

2. 普及・啓発活動

今年度、リーフレットのデザインを変更。事業所ネットワーク会議にて、改めて事業周知を実施。

リーフレットは、介護福祉課の窓口を設置する他、市内医療機関、高齢者実態調査の訪問時に配布。

市ホームページ内でも事業周知を実施。

地域包括支援センターのパンフレットの中に「認知症の方と家族を支える取り組み」の一つとして掲載。